

「ハレとケ」 通信

第20号

「非日常」と「日常」の、日本の風情のかたちを楽しむ暮らしをご提案する季刊誌です。

建設に携わることの幸せを、おすそわけ。

物語のある建築 (20)

「——チームで戦う!——」

松谷化学工業
番の州工場」

「ハレとケ」のある 暮らしかた

【秋の収穫を祝い、災いを祓う祭り／ハロウィン】

中津万象園「花の歳時記」

なげしまつ

【水景に風情添える流枝松】

平成 25 年 9 月発行

自宅のみみじ。

落ち葉の敷き詰められた様は美しいけれど、
わずが数日でシワシワに枯れてしまう。

「チームで戦う！―松谷化学工業番の州工場新築工事」

平成25年7月19日、盛大に竣工式が執り行われた、「松谷化学工業 番の州工場」。

日経トレンディでも 2013 ヒット商品予想で4位に選ばれ、【香川県産業成長戦略】でも第一番目に挙げられる、希少糖関連「ロジエクト」の要であり、また先鋒をつとめる「希少糖含有シロップ【レアシュガースイート】」の量産工場である。

敷地内に7棟の建築物が一気に建ち上がったこの「松谷化学工業 番の州工場」の工事は、我社の65年近い社歴の中でもおそらく類を見ない案件であり、私たち社員にとっては、大きなチャレンジボード、代表作となった。

――今回の物語のある建築では、この番の州工場について、関わったそれぞれの人間から、お話しをさせてほしいと思う。



↑門より全景を見る

●希少糖、そして松谷化学工業さんとの出会いから受注まで

プロポーザル～受注まで

そもそも、この「希少糖製造工場」を受注したと思ったきっかけは、「希少糖」そのものに惚れた”ことに始まる。

とはいえ、希少糖自体を知ったのは遅く、平成22年の年末頃のこと。

『世界初で、しかも香川県発の技術』であること、そしてまるで魔法の粉のように身体に良いさまざまな特性をもっていること。

考えていると楽しくなってきた、富士建設を訪れるいろいろな人に希少糖について話していたら、ある方から「今度、工場ができるのは知っていま

すか？」と言われ、工場建設を知った。工場ができる！

それはまさに、「物語のある建築」となるはずである。何と言っても、「香川発・世界初」の技術から生まれた夢の糖を、全国、世界に広める拠点なのだから。絶対にこの工事に係わりたい！早速、営業責任者である富士元と、三木町の希少糖生産技術研究所 希少糖研究研修センターを訪問。平成23年の1月末頃のことだ。

そして、松谷化学工業さんへ連絡するようアドバイスを受け、お手紙を書く。営業でお手紙を書くなんて中々ないけれど、電話ではなく手紙としたのは、「門前払い」が怖かったからである。そのくらい、まったく伝手も、縁もなかった。この時、本当にこの工場を受注できるかもしれないと思っていた人は、社内外に誰一人としていなかったように思う。

「この工事、絶対に係わりたいたんですけど、どうすれば良いのか分からないんです。」。色んな人に希少糖について話しているうちに、当時、銀行の支店長をされていたSさんと、協力業者であるT工

業さんが、「私は、富士建設が工場を受注できると信じます。協力しますので頑張ってください。」と言ってくれた。これが、それほど支えになったか分からない。

そして新しい年を迎え、ついに引合いの連絡がくる。初めてお手紙を書いたときから、1年後のことである。

平成24年2月7日、松谷化学工業本社を訪問、説明を受ける。今回はプロポーザル方式。帰りの車の中で、「どこか信頼できる設計事務所とチームを組む」という方針を決定、すぐに、寒川建築研究所へ依頼することを決めた。ここには、大学の後輩である洋次さんが帰って来ている、ということを知り、改めて訪問したばかりの設計事務所だった。

今回の「番の州工場」の受注までの営業における特徴は、「チームで戦った」とにある。日頃、設計事務所から紹介を受けた案件を見積・受注するか、設計施工でお客様より直接依頼を受けて受注するか、いずれかのケースが多い我が社にとって、その営業体制は、「営業担当者+

見積担当者」であることが多い。

しかし、今回の件では、「社内外のあらゆる知恵を集めたい」という思いから、現場管理の経験も豊富で、営業としての相模観も持っているベテラン営業担当者2名(富士元・矢原)、積算担当者2名(南條・山路)、受注した場合に施工を任せる予定の現場責任者(松坂)、積算の経験があり、現場の様子も熟知している米田社内の設計担当者(吉峰)、外部の大手ゼネコン事情に詳しいMさん、そして寒川建築研究所と、部や社内外を横断した、厚い布陣で臨んだ。

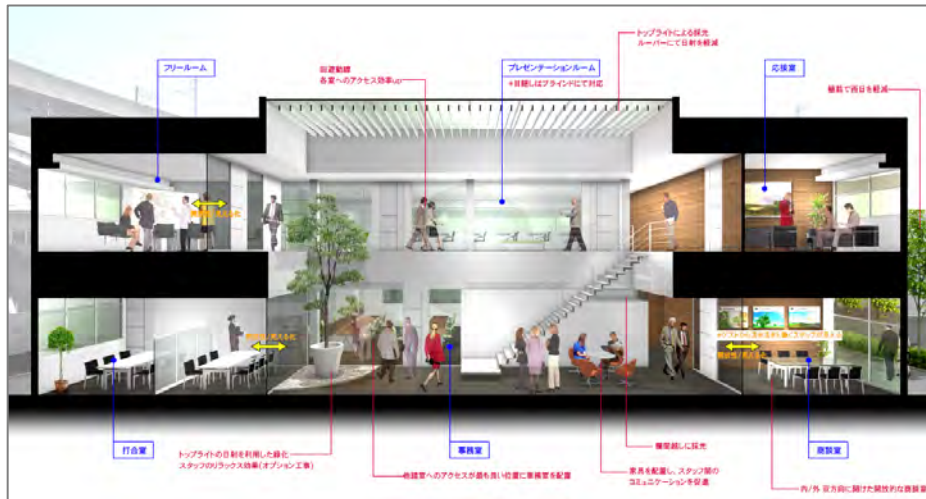
プロポーザルなので、プランや仕様はもつともふさわしいものを提案したい。一方で、その内容が他社と異なる以上、コストについても徹底的に検討しておくなければ、「良いから高い」では通用しない。そのためには、できるだけ多くの人の知恵で、さまざまな方向から検討を重ねた方がよい。…そんな判断からの「松谷プロジェクトチーム結成」だった。

ただ、全員、専任ではない。しかし、検討を重ねる度毎に変化していく内容を、

図面や見積に反映させていくという膨大な作業をこなさなければならない。

難しい状況の中、起こってくる変更やVEを、次々と正確に図面に可視化させていく寒川さんのスピード感、様子を見ながらメンバーに招集をかけ、打ち合せ

*プロポーザル時に提出した資料の一部 ((株) 寒川建築研究所 作成)



の場をアレンジする富士元、「ここまで必死でがんばつとるんやけん、土俵に乗れる!」と樂觀的に励まし、アイデアを出してはデータを集める矢原、そして「見積や図面のとりまとめは、積算や営業は忙しいから、無理だ。…私がやるしかないと思う。」と覚悟を決めた米田の言葉で、プロジェクトが回り始める。

毎晩のようにどこかで集まり、意見を言い合い、進捗状況を報告し、とりまとめしていく。誰か一人が行き詰まっても、他の誰かから突破口が提案されたり、違う視点からの意見が出たり、助け合ったりできる。――みんな、日常業務にプラスαした中での作業だったので、大変ではあったけれど、チームで戦うことの強さを実感すると共に、その楽しさもひしひしと感じていた。

そして約1ヶ月後、提出の日がやってきた。私たち富士+寒川チームが提出したのは、2案。技術提案、外観・内観・ハースを含む20ページもの大作だった。たぶん、そこまで要求されてはいなかった

かもしれないけれど、全て出さずにはいられなかった。今の自分たちには、これ以上できない。提出の前日には、Mさんから、「ベストを尽くしたのだから、今日はゆっくり休んで、明日に備えてください。」というメールもいただいたけれど、本当に、「やり残した」後悔は全くなく松谷化学工業の本社へ向かった。

そして——「内定しました。」との連絡が！飛び上がるほど嬉しい。日頃、まったく褒めてくれたことのない社長から「今回のような受注の仕方ができるようになれば、うちの会社に新しい側面が開けるかもしれない。」と認められたときのうれしさは、今も忘れない。もし負けたときに私がショックを受けないように、「もし受注できなくても、今回の営業のやり方は、得るものが大きかったから、良かったよネ。」と、しきりに周囲が伏線 を張っていたのも懐かしい。

内定後、係わったメンバー全員で「キックオフ」として食事会へ。帰りの電車

の中、隣の席で酔っ払った矢原が、「今回の営業は、本当に楽しかった！しんどかったけど、みんなでやったら楽しいな。いつもこうやってきたらええな。」と繰り返す言うのが、あたたかく嬉しかった。

その後、当初は「管理棟」のみの予定だった受注範囲が、プラント内全ての建築物へと変わり、図面打ち合せ、変更、見積、変更…と怒濤の日々が続く。まさに、内定してからが苦労の“本番”だった。米田を中心に、積算と設計・吉峰、松坂、寒川さんが全力で走っていく。プレッシャーを一身に背負うあまり、詰

めの甘いメンバーに対し珍しく強く怒る米田を、「業務、大丈夫ですよ。私は上手くいって、松谷社長に“ありがとう”って握手してもらっているイメージしかないですから！」と松坂がなだめたこともあったようだ。

いよいよ起工式の日。
錚々たるメンバーの中、施工業者として鉄入れの儀にトップで参加した弊社社長を、晴れ晴れとした思いで見つめる。会社の中で“親子”を持ち出してはいけないけれど、父を、このような晴れ舞台

に立たせることができたことが、本当に誇らしい。

——我が社にとって大きな挑戦となる、番の州工場の現場がこうして始まった。
(真鍋有紀子)



↑プロポーザル時に提出したパースの一部
(全て管理棟。(株)寒川建築研究所 作成
※但し実際の建物は設計時に変更となっている。)

コンセプトは“人材活性型”の施設提案

(株) 寒川建築研究所 寒川 洋次



「グローバル時代に向けた更なる松谷ブランドの創出、活性化型施設のご提案」これが当初、事業主に宛てた提案書の表紙に書かせて頂いた言葉です。

今回のプロジェクトが今後の松谷化学の事業展開に大きな役割を果たすものであること、また希少糖が未知数の大きな可能性を秘めた材料であることから、計画スタート時に本施設を「松谷ブランド／松谷化学」を育み、発信する為の企業アピールの場」として位置づけました。

現在のワークスペースの作り方は多種多様です。情報系の企業を筆頭に実にユニークなワークスペースが巷に増えてきました。

昨今の情報化社会がもたらした社会モデルの変化の影響によって人の働き方が変わってきたのも一因ですが、何より双方向型コミュニケーション重視という企業側の意識の変化が最も大きな要因であると思います。

業種／社風／社のビジョン等によって求められる空間は変わってきますが、ワ

ークスペースを計画するに当たって共通して重要なことは以下の2つ、私はこれに尽きると考えています。

- 1…企業理念を如何にして伝えるか
 - 2…企業財産であるスタッフのモチベーションを如何にして高めるか
- 1に関しては、例えばあるコールセンターでは、コール対応スペースをアイランド状に中央に置き、来社した方がガラス

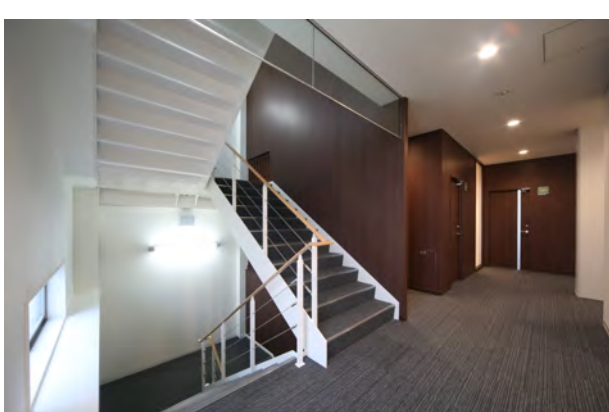


管理棟 エントランス部

越しに見える様に計画されています。一般執務空間とは切り離れた一種のショーウィンドウのような感覚ですが、効率だけを求めると建築計画上的ような配置計画は行いません。来客者はそこで電話先のお客様と丁寧に会話をするスタッフの仕草を見て間接的に電話先のお客様のことを思い浮かべます。そこでは電話先のお客様を何よりも一番大切にしている」という企業理念の表現を大切にしているわけです。

そしてそれは来訪者に対してのプレゼンテーションのみならず、スタッフの意識向上にも繋がります。

今回の施設は海外からの来客も多く見込むということもあり、メインエントランスを備える管理棟には企業の顔としての機能が要求されました。松谷化学の培ってきた「でん粉加工のバイオニア」としてのイメージに加え、希少糖という新たな製品とともに企業イメージを飛躍体現させていくことが本施設計画の重要なテーマの一つであったと思います。ゲストへのホスピタリティを考える上で



管理棟

最も重要な場所 特にエントランスの設
えというのは企業ブランドに直結します。
今回の計画に於いても、何種類ものイ
メージパースを作り、事業主との意見交
換を行う中で、企業イメージの確認を丁
寧に行いました。

最終的には木調やアースカラーを用い
た自然の色合いで構成するに至りまし
たが、そこには食を扱う企業の環境共生、
環境配慮型のイメージが表現されていま
す。生産棟／守衛棟に関しても白を基調
とした清潔な色合い、質感、艶によって
企業の衛生的、クリーンなイメージを体

現することとしました。

また、今回は建屋としては7棟からなる
複合施設だったのですが、全体としての
協調性には特に気を配っています。竣
工時に植樹した木々が大きく育った頃
統一したデザインコードで構成された白
い施設群と木々のコントラストが、より
一層施設イメージを高めてくれることと
思います。

さて、2に関してはコミュニケーション
の促進ツールを執務スペースの中にと
のように仕込むということが重要にな
っています。米グーグルのオフィスにビ

リヤード等の余暇スペースや階移動の為
の滑り台、無料のジムや社員食堂がある
等は有名な話ですが、そこで重要視して
いるのは福利厚生やリラクゼーション、
リフレッシュというものだけではありません。
せん。それ以上に”社員同士のコミュニ
ケーションを促進させる”というところ
を目標としているのです。遅れながら日
本でもそういう潮流が見直される様にな
り、いわゆる余白空間インフォーマルス
ペースの確保が社内環境を向上させる
という考え方が徐々に浸透してきたよう
に思われます。

例えば廊下を廊下として終わらせるの
ではなく、そこに少し椅子が置ける明る
いスペースがあったり、吹き抜けを介し
て各スペースがシームレスに繋がってい
たり、社員が活き活きと楽しそうに働い
ていることが会社全体の価値向上に貢献
します。またその様子を外部へ「見える
化」することでスタッフ意識／企業イメ
ージ、さらにはリクルート力の向上に繋
がるわけです。

私はこのような人材活性型オフィスを
「ライブオフィス」と呼んでいます。従
来型のスペース／廊下／スペースという

閉鎖的なものではなく、スペース／スペースの関係で生まれる集中とリラクセスの混ざったニュートラルな「空感」です。

今回の設計においてもそのような「空感」を出来るだけ実現させようと、吹き抜けを介した全体構成に強くこだわりました。双方から相手の動きが見えること、余白空間がナレッジスペースとして活用出来ること、ハイサイドライトから降り注ぐ光が明るく風通しの良いスペースを作り出すこと。

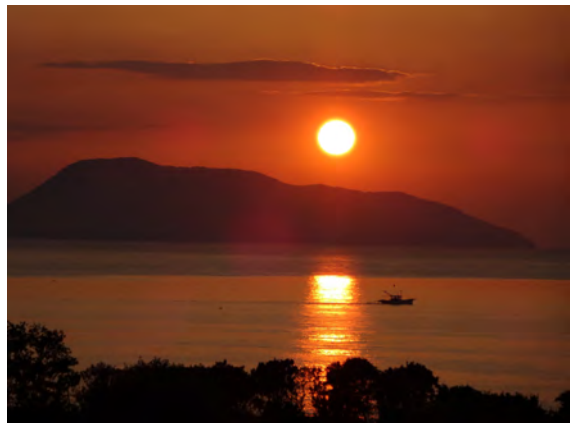
日常的な執務の中で「！」を偶発的に引き起こす仕掛け、それらがスタッフ間のコミュニケーションを向上させ、またモチベーションを高めてくれるものとなることを願います。(株)寒川建築研究所

寒川 洋次



●写真は「生産棟」「管理棟」「排水処理棟」「守衛棟」の各棟

松谷化学工業株式会社 課長 大江 進 氏



写真上より

- 「生産棟より瀬戸内海を望む」
- 「管理棟」
- 「生産棟」
- 「模型前」にて（番の州プラント全体の模型制作を担当した大槻さんと共に）

（全て写真提供 大江氏）

弊社『番の州工場』を建設するにあたり、ちょうど2年前の2011年9月30日香川県に出張し、中讃土木事務所3階会議室でインフラ整備の打合せをしたのが昨日のように思えます。

今回『番の州工場』の見どころは生産棟屋上から瀬戸内海に茜色になって沈む夕日です。

その場所は佐柳島、牛島や私の実家のある本島が良く見えます。

番の州工場での工事現場写真は6ヶ月で約200枚も撮りました。毎日撮ったとしても1日10

枚以上の見当です。

今ではその写真が、私の宝物になりました。

まさか自分が地元香川でこのようなプラント建設が出来るなんて思ってもいませんでした。

何かの『縁』を感じました。

初めて富士建設株式会社の本社に訪問する時、多度津駅で米田常務と待ち合わせ致しました。

車で迎えに来ていただき本社に向かう途中「ここが私の卒業した高校ですー」と言った瞬間、米田常務も「僕もー」と言ってお互い顔を見合わせました。

しかも同級生なんてまたこれも『奇遇

な縁』です。

番の州の埋立て地区の何もない原っぱから杭打ち、基礎工事、鉄骨建て方、外装、内装と段々出来上がって来るとなんだか嬉しくなりました。

それらの建物は幾多の設計変更やトラブルを乗り越えやつと形になって現れました！

たぶん貴社は『松谷化学はがいな会社やなあー』って思ったはずですよ。

今風に言ううと『松谷化学はワイルドだぜえー』になるのかな？！

建物内部のドアノブ、サッシの色、オフィス家具や応接セット、はたまた便器の色等々……今までにない工場を作る

ために一つ一つを番の州チームで決めて行きました。

地元の人が『こんな工場で働きたいー』と望むものを作り上げたと自負しております。

これは建設に関わった人達全員が同じ方向を向き、力を合わせ成し遂げた成果だと思います。

最後になりましたが、こんなに素敵なデザインの管理棟を設計していただいた株式会社寒川建築研究所、そして施工していただいた富士建設株式会社に感謝致します。

ありがとうございました。

（文／松谷化学工業株式会社 課長 大江 進）



平成24年の初春、突然召集がかかった。

——宇多津の番の州にプラント工場の計画がある。1万平方メートルの敷地に、数棟建つらしい。とりあえず、管理棟建屋（S造2階建）のプロポーザルの見積りが必要である。しかも、競合相手には、大手ゼネコンも、名を連ねている。——

「工期はどうか。」

「プラント工事との連携をどう考えるか。」「構造はどうする。」

「設備の見積りはどう徴収するか。」「屋根は、外壁は、建具は、家具は？」
……受注に至る為のいろんな議論がなされた。

松谷化学工業(株)番の州工場新築工事の積算に私はこうして参加した。

プロポーザルに大切なのは、企画・提案と価格である。

設計協力を、(株)寒川建築研究所に依頼することとなった。

寒川建築研究所の案により、【a案設計者の意図が加筆されたもの】、【b案（松谷化学工業より提示された図面通り）】の二通りの建物を提案する。

私は、設計事務所の提案書を基に、杭工事、外壁工事、屋根工事、建具工事等、施主の要求事項に応じた価格を精査していった。コンクリート・ALC・ビニールクロス等主要な単価は、かなり絞った。結果、提出にあたっては、価格はかなりシビアなものになった。

この管理棟建屋のプロポーザルで他の建物すべての受注がかかっているのだ。——結果はご存知の通り、富士建設の受注となった。

ここからも、大変だった。
当初2階建てで計画した、この建物は

3階建てに変更。また、生産棟・排水処理棟・排水処理槽・ブローアー棟・守衛棟・倉庫棟・ボイラーコンプレッサー棟etc...と積算がつづく。

私の仕事は積算までだが、竣工した今、改めてよくできたと思う。

工務部、設計部、会社役員の方々にも大変な苦勞・努力があったであろう。

今回のこの協力体制(知恵と技術)は、これからの富士建設(株)の企業力になると思う。

（南條 光浩）

松谷化学の見積りでは、主に生産棟、管理棟、ボイラー・コンプレッサー室、守衛棟、排水処理槽、及びプラント関係の基礎の躯体数量積算を担当しました。

建物ひとつひとつで見るとそれほど大きな規模ではないのですが、全体を二つの物件とすると、今まで見積りした中では最大規模であり初めての経験でした。

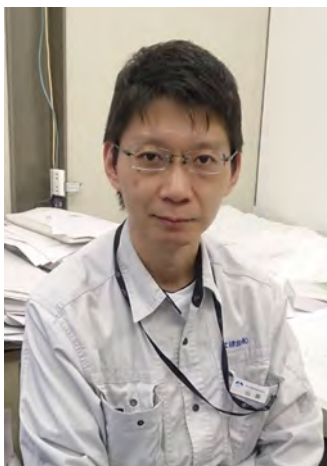
以前、当社の真鍮専務に「積算の仕事はどんなところが楽しいで

すか？」と質問されたことがありました。積算の仕事は、目に見える形としての成果は「見積書」という書類であり、一見地味です。

私は、「数量を計算していくと、頭の中で二次元の図面から立体的な建物のイメージが出来上がっていく過程がおもしろい。」と答えました。

見積が進むのに従って、番の州の何もない広大な敷地の中にひとつひとつ建物が浮かび上がり全てのイメージができたときは今までにない達成感がありました。

今回松谷化学の工事にあたり、見積中は苦勞もありましたが、無事竣工を迎え、この仕事に携わることができたことは自分にとって大きな宝物になりました。この経験をぜひこれからの仕事に役立てて生きたいと思います。（山路 元博）



現場を担当した、我が社の宝物の社員たちです。

責任者／ 次長 松坂 伸基



松谷化学工業の現場は、私たち担当者に取りまして施工させていただいてよかったと思います。

昨年の11月、外構工事から着手しまして、のち、本格的に杭打工事をはじめました。落成式の翌年7月19日までの間は、無我夢中でした。また、松谷化学工業の山田本部長さんが、工事着手後、時々現場に来る機会があったのですが、右手を上げて「よっ！工事は順調か？みんな体に気つけてな。」と、にこにこして話しかけてくれ、工事竣工前から落成式までは、ずっと現場にいらっしやいましたけれど、毎日「ありがたい」と言っていたきました。

今回の現場については、私はなにもできなかったけれど、大西さんをはじめ、現場の方の力だと思っています。感謝しています。また、松谷化学工業様と協力業者のみなさま、富士建設の看板に感謝しています。

工期もなく、人員が不足している中大変苦労されたと思います。

現場員の配置がうまいなと思いました。

うまく言えませんが、みんなのことをよく理解してその人の力が発揮できるよう配置していると感じました。（長尾より）

とても頼もしい存在でした。

施主対応も迅速で、現場もよく巡視し、各担当者の相談にものってアドバイスしてくれ、自分も予算管理も大変な中よく現場にでて指示していただきました。

松坂次長だからこそみんなが最後までついていけたと思いました。（松尾より）

一度はいつしよに現場をしたいと思った人です。想像通り、いやそれ以上の人でした。

あれだけ厳しい現場でも弱音を吐かず仕事をこなす姿に感動しました。

陰で胃薬を飲んでいたのを思い出します。

人を見る目も優れていると思います。適材適所の人員配置をしてくれたと思います。

何度かあった飲み会の席で、松谷の現場の話になると『絶対にこのプロジェクトは成功させるんや。』と言っていたのを思い出します。

工程が思い通りに進まず別途業者に対してイライラした時も、松坂さんに『喧嘩したほうの負けやで。怒った方の負けやで』と言われて何度も思いとどまりました。

松坂さんがトップで現場にいたからこそ完成した現場であると自信をもって言えます。

松坂さんがいたからこそ私も最後まで諦めずに頑張れたと思います。

毎日、工事日誌と現況写真を松谷化学工業さんに送っていました。（やりますと言えずにごめんなさい。）

今は別々の現場ですが今後ともご指導御願ひします。

松坂さん一生ついていきます。（大西より）

今回で同じ現場は4回目でした。

お互い頑固なので地味にぶつかる事もありました。

余計なことで苛々させた事を申し訳なく思います。

強い意志で、自らの信念に従って行動する姿は尊敬しています。

（田嶋より）

あれだけの現場で現場代理人を務めると精神的にもかなり厳しい状況の中、最後まで和やかなムードを作ってくれた松坂次長が仕事をしやすいようにしてくれました。（船田より）

初めて現場に行った時、松坂次長が大変疲労しているのが一目見た時点で分かりました。

1年生の時から大変お世話になっている松坂次長の力になれるよう頑張ろうと自然と思いました。

疲れているながらも時々見た松坂次長の笑顔が忘れられません。（宮崎より）



課長 大西 正人

大小入れると7棟同時に施工し、且つ別途業者との調整と今までに経験した事の無い工事でしたが、このメンバーだからこそ無事完成出来たと思います。



今回初めて一緒に現場になりました。
私の愚痴や無駄話をおおらかに受け止めてくれました。
図面の提出がいつもギリギリで迷惑をかけてしまいました。
のんびりおっとりな感じですがとても頼りにしています。
(田嶋より)

生産棟で別途工事が多く予定通り進まないことも多々あったと思いますが、調整し管理するのはすごいと感心しました。
別途業者のいない管理棟に来て、「管理棟は落ち着く。生産棟は、アウェイや。」と言っていたのが印象に残っています。
(長尾より)

大西さんについては、私の分身として、数ヶ月間夜遅くまで作業をしてもらい、最初から最後まで現場を仕切っていただきました。

杭工事が終わりかけた時から基礎掘削工事に取りかかりましたが、排水処理棟～排水処理層～管理棟～生産棟～配管ラック基礎～ボイラーコンプレッサー棟～最終処理層～倉庫棟と次々に工事を進めるので、『よくそんなに手をつけてすごいな～』と思ってしていました。

当然、日が変わるまで毎日夜遅くまで仕事をしていましたし、休みもなくやっていたので大変苦労したと思います。大西さんは、業者や職人の話をよく聞いてお互いに納得して現場を進めていました。(そのすり合わせは大変なもので私だと頭の中がパニックになりそうです。)

私にとって絶対なる信用をおけましたし、彼がいないと完成していませんでした。

現場で、夕方職人が帰り、みんなで休憩しているとき、『さあ、いこうか』と声をかけあい、現場に向かっている姿を忘れられません。私は事務仕事があり一緒に出来なかったので『悪いなあー』と思っていました。

また、ある土曜日の夕方のことですが、『明日、職人だれがくるん!』と聞いたら、『だれもきません』と言っていたのに、日曜日現場にきたら、社員もきているし、職人もきていました。私を休ませようと思ったのでしょうか。そんな気遣いは、彼でなければできません。
(松坂より)

初めから工事にたずさわり、図面チェック・段取り・管理等、大変だったと思います。11月～3月までスタッフがそろわないまでの期間は特に大変だったでしょう。

現場で怒ったら負けと松坂次長から言われた事をかたくなに守り、別途業者に対応している姿は見習わなければいけないと実感しました。

大西課長なしにはあそこまで進んでいなかったと思いました。
(松尾より)

3月初旬の日曜日(むちゃ寒かった)に生産棟の機械基礎の墨だしを大西課長と2人でした記憶があります。(何箇所かずれてましたね…)

屋間は現場で夜は施工図のチェック…

目を真っ赤に充血させて頑張っていた大西課長を忘れる事ができません。
(宮崎より)

生産棟でプラント業者との並行作業で作業能率も悪く一番段取りが難しい所をそつ無くこなしていました。
(船田より)

—共に頑張った仲間たちからのメッセージ—

主任 松尾 太三紀



私は3月4日からこの現場に配属になりました。工期が無く大変な現場という事は以前から聞いていました。実際現場に入ってみると、7棟が同時進行で進んでおり、別途業者を含め大勢の職方さんたちがいてその対応・段取りに日々追われる毎日でした。

昼間は現場管理と夜は図面チェックで追われ日々遅くまで残業でした。そんな中スタッフ一丸となり取り組めたことはいいい仲間がいたからだと思います。

残念なことに3月に事故が起き、幸いにも軽傷で済んだ事は奇跡でした。事故後、週一回の現場安全パトロールから週3回の安全パトロールになり、日々現場の安全管理・周知に追われる毎日でしたが、日頃気にしないことまで指摘していただき、安全に関しての意識が高まり、その後無事故で竣工出来た事はよかったと思います。

今後、現場では仕上がりも大事ですが、安全にも意識を高め、無事故無災害で工事を進めて行きたいと思っています。

松尾さんには、私自身本当に助けてもらいました。現場での安全管理が大変だったのですが安全書類をはじめ、安全設備の巡回など毎日苦勞をかけました、また、いろいろな棟の追いついていない図面のチェックをはじめ段取りなどすべてのカバーをして頂きました。
(松坂より)

安全担当として作業員が100名以上作業しているときに、週に1回でも大変だった安全パトロールが5月に週3回になり非常に大変だったと思います。
安全管理で私では気づかない細かなところまで対応していて勉強になりました。
(長尾より)

主に安全関係を見てもらっていたのですが、大手とのJVの経験を生かした安全管理は見事でした。
毎週あった合同安全パトロールお疲れ様でした。
夕方喫煙所で松尾さんといっしょにいと、会話は少なめですが何故かホッとしました。
いっしょに作業車に乗って配管開口の寸法を計測したのを思い出します。
やさしい兄貴分的な存在でした。
(大西より)

ほんわりした雰囲気ですぐと作業をしていました。
図面のフォローもしていただきました。
(田嶋より)

安全担当で今までの経験をフルに生かしていました。
(船田より)

現場ではよく松尾さんと共に行動していました。
世間話や何でも相談できる兄貴的存在で(でも怒ったら怖い…)、今の現場でも大変お世話になっております。
安全関連の知識には特に私のお手本になっています。
(宮崎より)





主任 船田 善敬

松谷化学番の州工場新築工事を
振り返ってみると、大変な現場で
したが楽しかったです。



私と同じくらいに現場に入り共に仕事をしてきました。
非常に明るい性格で現場のムードメーカーとして暗い
ムードを吹き飛ばしてくれました。
管理棟担当の際寒川建築研究所の寒川氏との対応は迅
速でかつ自分の意見も言いつつ打合せをしている姿を
見て頼もしいなと思いました。（松尾より）

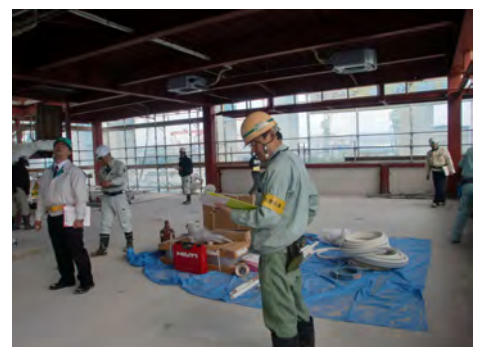
管理棟で、5月最後の日曜日の軽鉄工事の予定作業員が
少なく、私が頭を抱えていたとき船田さんのおかげで増
員することが出来、5月中になんとか形にすることが出
来ました。
ありがとうございました。（長尾より）

船田さんは、明るくまじめな性格で、現場の士気を上げてもらいました。
あえて今回の現場では、この建物をと、特定せずにみんなを助けてほしいと
思っていたのですが、見事にその役目を果たして頂きました。夜の残業でも【僕
が残っていますから】とみんなに気を遣ってもらったり、あらゆる棟で現場
を収めてもらいました。（松坂より）

明るく小さな事は気にしないゆ
ったりした人です。大きな笑い
声で現場事務所が明るくなりま
した。（田嶋より）

一言で言うとムードメーカーでした。辛い時でも船
田くんの笑い声を聞くと元気になりました。
高所が苦手なのに一緒に作業車に乗って作業した事
を思い出します。（足が震えていたかも。）
『錆取職人』の買い出しお疲れ様でした。
（大西より）

私と一番年齢に近い先輩で、なおかつムードメーカー的存在の
船田主任。
バカな話をしながら一緒に生コン打設の準備等をしました。
えらかったながらも楽しく仕事できた記憶があります。
（宮崎より）



主任 宮崎 俊輔



今回、2月20日頃から3月末までの約1カ月の短い期間でしたが松谷化学新築工事のプロジェクトに参加させて頂きました。

事前に現場の様子を見学に生産棟の1回目の鉄骨建方中頃行ったのですが、広い敷地内に数々の建物、多数の下請・別途業者の方々…。

また連日の残業で疲れているのが明らかに見てわかる松坂次長、大西課長、田嶋さん、竹安君…。作業所の皆さんの力に少しでもなれるよう頑張らんといいかなと一番に思いました。

そして現場に行くようになるのですが、はっきり言って、何処に何が建っている、仕上がりがどうなっているなどさっぱり解らないので、とにかく現場内をひたすら観てまわり、そして設計図とにらめっこ。

はじめの一週間はそんな感じでした。

また、1日に一回は必ず何処かで生コンを打設していた記憶があります。

そうこうしていると松尾主任・船田主任が来てくれるようになり、みんなで曇だし・コンクリート打設前の準備等、つまらない冗談を言いながら一緒にしました。そうこうしているとあつという間に1日が終わる、現場は明らかに進捗しているのがわかる。

また、みんなで協力しあった過去の現場の事も思い出しました。

こんな大きなプロジェクトの機会は滅多にないので、現場の最後まで居れなかったのが残念でしたし、皆さんの力になれたとは思えませんが、非常に充実した約1カ月でした。

私との入れ替わりで期間は短かったですが素早く次の段取りをこなしていました。
(船田より)

一か月足らずしか一緒に出来ませんでしたが、よく図面・納まりを把握し、現場管理に努めていました。現場の職方さんたちにも信頼されており、よく相談され、迅速な対応をしていました。(松尾より)

どんなに忙しくても楽しそうに仕事をする姿が印象的でした。すぐに職人さんと仲良くなり、現場の雰囲気気を和ましてくれました。
日曜日に生産棟でいっしょにタンク基礎の墨出しをしたのを思い出します。(大西より)

現場で格棟の基礎が出来上がり、鉄骨が建ち始めた時に現場に入ってもらったと思います。
私も大西さんも現場が進むに連れてパニック状態になりそうな時に、彼の持ち味である明るい性格に助けられたと思います。
短い期間ではありましたが、十分力を発揮してもらいました。(松坂より)

同時期に現場には、いなかったのですが、ムードメーカーとなり張詰めた空気を和やかにしてくれたと松坂次長から聞いています。(長尾より)

頭の回転が速くハキハキした人です。テキパキ要領よく仕事をしていました。(田嶋より)



主任 長尾 寧士

4月22日から現場へ行きましたが、最初に松坂次長に現場を案内してもらったときは、正直な話、5月に完成できると思いませんでした。

それから管理棟を担当して、毎週工程表を書くたびに心が折れそうになっていました。

でもその都度、みなさんに助言をもらって助けられながらなんとか形にすることが出来ました。

自分一人では、出来なかったことがみなさんに助けられ出来たと思います。

私は、1棟で精いっぱいでしたから松坂さん、大西さんの苦労は、計り知れません。

忙しかったですが、非常に学ぶことがたくさんあり忘れられない現場になりました。

一番最後に現場入りし管理棟を担当しました。
工期が無い中焦るしぐさも見せず仕事を着々とこなしていました。
工事の段取りもよく流れる様に工事が進んでいき、
また仕上がりもよく感心しました。
職方に、たまにはきつく指導し工程管理をしている姿、頼もしかったです。（松尾より）

4月末から来て全然手つかずの管理棟を見事納めてくれました。段取りの良さは、尊敬に値します。
竣工書類の作成スピードは見事でした。長尾くんがいないと到底できていませんでした。
タンクに付着した、もらい錆をゴム手袋を装着し『錆取職人』で落としていた姿が忘れられません。
（大西より）

4月に入ってだったかと思いますが、現場に来たのですが、工期もあとわずかでしたので、【管理棟】だけを管理してもらおうと考えていました。

全部で11箇所の建築物や構造体があり、ほとんど別途業者さんとの工程がからんでおり、工程表とおりに進めなければならなかったのですが、唯一管理棟は、富士建設の工程で進めても大丈夫だった、—そのせいでどうしても後回しに考えていました。しかし工期がなくなっていたので長尾さんには大変な苦労をかけてしまいました。

彼のイメージについては【確実】であると言えます。

また、そんな彼だったのでみんなも一緒になってフォローに回っていました。（松坂より）

今回で一緒に現場は二度目でした。
前回もそうでしたが、書類を着々とこなす姿勢は素晴らしいと思います。
冷静沈着で思慮深い人です。（田嶋より）

管理棟担当で松谷の現場の中で一番工程的に厳しい処を難なくこなしていました。（船田より）



今回の現場は、現場以外の仕事も重なり、心身共に大変厳しい現場でしたが、現場の皆さん・現場以外の皆さん色んな人の支えがあつて、乗り切る事が出来ました。とても感謝しています。自己嫌悪に陥る事もありましたが、この現場に携われた事は良い経験になったと思います。

日々遅くまで施工図作成をし、現場を出てから本社へ帰り、さらに仕事をしている頑張り屋さんです。トイレ掃除・事務所掃除をしてくれていつもきれいでした。（松尾より）

現場の事務員としての仕事、施工図、本社の事務員としての仕事をこなす為に休日もなく物凄く大変だったと思います。お疲れ様でした。（長尾より）

田嶋さんについては、何度も現場と一緒にやってきましたから、性格はよく知っていました。ただ、今回については大変苦勞をかけてしまい、申し訳なかったと思います。

これだけ一度に現場をすすめるのに、一人で施工図を書き上げましたが、最初から最後まで夜遅くまで業務をさせてしまいました。最初はいくつかの棟を外注しようと考えていましたが、それができずに苦勞をかけました。またそのときに工務事務もしないといけない状況だったので、体調がわるくなり、寝込まないか心配でした。

現場が終わり少しゆっくりできていたらいいのですが。

（松坂より）

ひたすら黙々と日が変わろうがお構いなしに施工図を作成していた田嶋さん。

ある意味で田嶋さんが一番タフだったと思います。

次から次へと急ピッチで建物が建っていくなかで、対応できるよう夜遅くまで、日曜日も休むことなく施工図を作成していた田嶋さんを大変尊敬しています。（宮崎より）

見事に施工図作成を一人でやり遂げたすごい人。夜遅くまで図面を書いていたのを今でも思い出します。

一度やると自分で決めたら最後までやり通す所は見習うべき所です。（多少頑固な所があると思うが…）

遠距離通勤お疲れさまでした。（大西より）

男性に負けないくらいの仕事量（施工図等）があつたと思うのですが、きっちりこなしていました。

（船田より）



工事写真を一人で文句も言わず撮影していました。（使えない写真も多々あったが…）

良くも悪くも非常に度胸のある神経の持ち主でした。（大西より）

上司に怒られても全く気にしない『我が道を行く』人です（笑）。（田嶋より）

現場は経験がない中、言われたことを忠実にこなし（たまには抜けるが）、日々現場内をかけずり回ってえらかったと思います。

設計業務にいかしていけるいい経験だったと思います。（松尾より）

日中は、雑作業をし、みんなが帰ってから一人残って、写真整理や書類整理をしていました。

責任感を持ってよくやっていたと思います。（長尾より）

彼は、設計部だったのですが、工務の人手不足から現場配属となりました。当然工務の仕事となると初めてなのでなにからでも覚えられないといけません。…と言いますか、やってもらわないといけなかった状態でした。

苦労はしたと思いますが、現場での工事を見てかなり勉強になったのだと思います。今回の現場のことを忘れずに今後に生かして頂きたいと思います。（松坂より）

現場での経験が浅く解らないことが沢山あったと思いますが一生懸命頑張っていました。（船田より）



「番の州工場」で製造している希少糖とは？？

◆ 自然界にごくわずか（希少）しか存在しない糖 のこと。

例えばキシリトール、エリスリトール、D-ブシコース、D-アロースなどがそれにあたります。

これまで、人工的に製造する方法が分からないことから研究が進まなかったのですが、

香川大学の何森教授が、世界で初めて希少糖を体系的に製造するための「イズモリング」を発見したため、研究が進展。

その結果、様々な身体に良い特性が発見されました（内臓脂肪の蓄積を抑える、寿命延長、動脈硬化の抑制、虫歯になりにくい、抗がん作用、抗酸化作用、抗骨粗鬆症作用、食後血糖値の上昇を抑える等）。

◆香川県「産業成長戦略」の重点プロジェクトの筆頭として

【かがわ希少糖ホワイトバレープロジェクト】が発足。

『①世界的に求心力のある希少糖の「知の拠点（＝研究開発拠点）」の形成』

『②産学官一体となった「希少糖産業」の創出』

『③世界に通じる「香川の希少糖」ブランドの確立』

をテーマに、いよいよ県を挙げての取り組みが本格的に始まります。

夢の糖「希少糖」は、

『力強く着実に成長していく香川の経済社会』の礎となる大きな可能性を秘めています。

希少糖のあゆみと可能性

【希少糖のあゆみ】 (みんなの県政「THE かがわ」より)

年度	できごと
1991年	香川大学農学部何森教授(当時)が果糖を希少糖(D-プシコース)に変換させる酵素を発見。希少糖研究の始まり
1999年～	希少糖の基礎的研究開発(産官学連携の希少糖研究スタート)
2001年	香川大学が学内に「希少糖研究センター」設置
2002年	D-プシコース生産の基盤確立 希少糖事業化の基盤的研究開発→希少糖が香川県地域資源に指定
2004年	松谷化学工業株式会社の参入
2006年	香川大学発ベンチャー「希少糖生産技術研究所」設立
2008年～	D-プシコースの事業化→D-プシコースを特定保健用食品に申請
2009年～	希少糖含有異性化糖の事業化→希少糖含有シロップの商品化
2010年	「株式会社レアスウィート」設立
2012年	レアシュガースウィートを香川県内で一般向け先行販売
2013年	レアシュガースウィートを製造する工場が本格稼働

希少糖の特性として、

- ・内臓脂肪の蓄積を抑える
- ・動脈硬化の抑制
- ・抗がん作用
- ・抗骨粗鬆症作用
- ・寿命延長
- ・虫歯になりにくい
- ・抗酸化作用
- ・食後血糖値の上昇を抑える

といった身体に良い作用が多く見つっていますが、

- ・植物生育調節
- ・植物病害虫耐性増強作用

などの植物への好影響も発見されています。

現在番の州工場で製造されているのは「異性化糖」(液糖)のみで、主に食品への展開が期待されていますが、今後研究が進み、「単糖」の製造も行われるようになれば、農業や医薬品としての可能性も大きくなってきます！

(みんなの県政「THE かがわ」より)



【各種助成も！】

1. 希少糖研究支援事業
2. 糖質バイオ商品開発支援事業
3. 「うどん県発、世界に広げよう希少糖」キャンペーン事業
4. ネットワーク等形成事業
5. 希少糖産業基盤形成促進事業
(希少糖の生産や試験研究を行う施設・設備を設置する企業に対して助成金を交付)

この季節を暮らす。(20)

【秋の収穫を祝い、災いを祓う祭り／ハロウィン】

10月31日はハロウィン。日本でも季節のイベントとして楽しむ方が増えてきましたね。カトリック教の万聖節11月1日前夜祭がハロウィンですが、実はハロウィンはカトリックやキリスト教の行事ではなく、非宗教的な大衆文化として広まった習俗でお祭りだという事はご存知ですか？

ハロウィンの起源はヨーロッパの古代ケルトで行われていた収穫への感謝と悪霊達を追い払う「ソーウィン」(Samhain)というお祭りです。古代ケルトでは11月1日に暦が替わるため、10月31日の大晦日に祖先の霊が家に帰ってきて、いっしょに悪霊や魔女がやって来て災いをもたらすと信じられていました。新年を迎える前に、魔除けの為に火を焚き、悪霊を怖がらせ追いつめるために仮面をかぶったり、悪霊から子どもを守る為に、仮面で変装をさせていたのが、やがて移民とともにアメリカに伝わり、子どもが楽しめる行事へと変化していき、万聖節前夜祭となりました。

万聖節とはすべての聖人と殉教者を祭る、キリスト教の祝日です。ハロウズ

(Hallows)＝聖職者、神聖な者という意味で、前夜祭＝オール・ハロウズ・イブ (All Hallows eve) がなまってハロウィン (Halloween) と呼ばれるようになりました。

宗教色のない子ども向けの大きなイベントになったハロウィン。一番盛んな国はアメリカで、大人も子どもも楽しむ行事として、クリスマスに次ぐフェスティバルとなっています。仮装パレードやコンテストがあったり、家庭でもイルミネーションで家を飾り、仮装の用意や子どもに配るお菓子やパーティの準備、カボチャのランタン作りと準備も大変なのだそうです。

このかぼちゃのランタンは「ジャック・オー・ランタン」と呼ばれ、この灯りが魔除けと先祖の霊への目印として窓辺や玄関に飾られます。ケルトでは「かぶ」で作られていましたが、アメリカでは大きく色鮮やかで保存にも優れ、収穫時期でもあり入手しやすいカボチャで作るのが主流になりました。

ハロウィンでは、家庭ではかぼちゃのお菓子や料理を作りますが、このオレン

ジのかぼちゃは観賞用で食べられないそうです。日本でも、ハロウィンが近付くとスーパーで売られているのを見かけますね。

ハロウィンの夜、家々にジャック・オー・ランタンの灯りがともると、子どもたちはゴーストや魔法使いなどの仮装をして近所を訪ねてまわります。玄関をたたいて「トリック・オア・トリート！」(お菓子をくれなきゃいたずらするぞ!)と唱えられ、その家の人が「ハッピーハロウィン！」

と言ってお菓子を渡します。

このお菓子には悪霊を追い払う、神様が食べてくれるなどの意味があるそうです。

子ども達はもらったお菓子を持ち寄り、パーティを開いたりします。

クリスマスやバレンタインデーも日本に定着して長く、ハロウィンもこれからもっと浸透していくかもしれません。日本での「ハロウィンで楽しみたい事ランキング」を調べてみました。(参考:88ランキング)



- 1 仮装をする
- 2 ホームパーティを開く
- 3 お菓子を配る、もらいに行く
- 4 ハロウィンイベントに参加する
- 5 ハロウィングッズを飾る
- 6 かぼちゃ料理を食べる
- 7 ジャック・オー・ランタンを作る
- 8 プレゼント交換をする
- 9 遊園地で遊ぶ
- 10 ハロウィンを意識したファッションにする

仮装して近所を歩くのは無理でも、遊園地やハロウィンイベントなどに参加すれば仮装も楽しめそうです。家族や友人と家で仮装パーティもいいですね。最近ではハロウィン向け商品が多くお店に並ぶようになり、衣装も手軽に買えます。ちよっとしたハロウィン仕様のお菓子をプレゼントしたり、グッズを飾って気分を味わうのもいいですね。ランタン作りに挑戦するのも楽しそうです。

それに、仮装やお菓子を配るなんて、何だか楽しそうな非日常！ハロウィンは馴染みがない、何もした事がないなあという方も、今年は季節のイベントとして楽しんでみるのはいかがですか？

「花の歳時記」

水景に風情添える流枝松
なげしまつ

中津万象園の庭園美を構成している要素として、瀬戸内海を連想させるような穏やかな八景池の景はもちろんのこと、その池泉に浮かぶ島嶼や、周辺の丘に植栽された個性豊かな数々の名松の存在も忘れることはできません。それら名松のなかで、万象園の景観のポイントとして

植生しているマツに流なげ枝松（しまつ）があります。この流枝松は園内に数本植栽されており、それぞれのマツが周辺の景観構成の要として重要な役割を果たしています。写真のマツもその中の一本であります。他のマツについては紙面の都合上掲載を省略しますので、園へお越しの折は観察いただければ有難

いと存じます。この「流枝松」は、江戸時代中期の有名な庭師北村援斎によって書かれた庭づくりの手引書「築山庭造伝前編」に詳しく記載されていますので、その原文を要約してつぎに記述します。「池泉の水際に植えられた松が、生長に応じて水面に向かって大きく弧を描くように枝を伸ばしているマツのことを流枝松と称します。したがって植え付け後しばらくの間水平に幹を伸ばさせていますが、先端は次第に直立した姿となります。この流枝松の長所は、水面と地表との連結調和を図り、水景に風情を添えるところにあります。」（長岡 公）

【編集後記】 今回の【物語のある建築】は、松谷化学工業さまの番の州工場新築工事。係わった現場担当者ひとりひとりに1ページを使ってしまったことは、もしかすると読みづらい冗長な構成となっているかもしれません。どうぞお許しください。広大な敷地に7棟もの建築物が一気に建ち上がる本工事は、将来の富士建設を代表する工事であると共に、ちょうど繁忙期と重なったこともあり、現場的には苦しいものでした。その現場に係わる人だけでなく、他の現場にもその影響はあつたはず。ただ、その“大変”ということを、当社の社員は、「自分が大変だ、苦労している」と言わず、「〇〇さんは今大変だから、何とかしてあげないと」という言い方でお互いに庇い合い、行動してきました。それができる皆をすごいと感動しました。その支え合う気持ちを文章にしたかったのです。男性ばかりのせいか、照れ屋であまり面と向かって褒め合ったりはしないようですが、こうして言葉にすることで、当社の社員の素晴らしさが、読んでくださる皆さまに伝われば良いなと思います。ここに掲載したのは一部の社員だけです。が、他の皆も同じ。富士建設にこんなに素晴らしい社員が皆さまがいることを、幸せに、そして誇りに思います。

かさねの色（20） 「櫨紅葉」

日本人の季節を感じる心、美しいと感じる色彩感覚。そういったものの結晶とも言える「重色目（かさねいろめ）」は、平安時代に生まれ、季節の移り変わりを表現する配色として併せ仕立ての着物などに用いられました。現代でもしつらえなどにいかして、平安の風雅を味わってみては…。



表：蘇芳（濃）／裏：黄
「はじはせもみじ」着用時期は秋。
櫨（ハゼ）の木の葉の紅葉を表しています。

古来より季節を感じさせた「色」を知る。かさねの色（20）

【発行者紹介】富士建設株式会社は、現存する木造五重塔55基のうち2基を建立し、「建築は文化なり」を理念に掲げて、官公庁建物・各種施設等大型建築物をはじめ、数寄屋風住宅、デザイン住宅、リフォームまで幅広く施工している。また、県下において1300区画超の宅地開発・分譲の実績を持ち、「街づくり」に対する貢献には定評がある。なお、丸亀市指定名勝である「中津万象園」の修復維持保全活動も行っている。

- 営業所：高松営業所・丸亀本店・観音寺営業所
- 中津万象園・丸亀美術館／丸亀プラザホテル／味処 懐風亭

＜中津万象園・丸亀美術館へのアクセス＞
瀬戸中央道路 坂出北ICより約8.5km／約15分
坂出ICより約14km／約20分
高速道路普通寺ICより約5km 約10分



【長岡 公 氏】

昭和2年10月 香川県丸亀市津森町に生まれる。
昭和26年3月 鹿児島大学鹿児島農林専門学校農学科卒業
昭和26年4月以降 香川県公立高等学校教員として
主基高等学校・飯山高等学校・笠田高等学校・農業経営高等学校教諭、高松南高等学校・飯山高等学校教頭
昭和63年3月 定年退職 香川西高等学校教頭
現在 公益財団法人中津万象園保勝会 理事
※主な著書に「讃岐の名園紀行」（栗林 玉藻編／中 西謙編）がある。

*****御意見、御感想をお聞かせ下さい*****



建設業許可：香川県知事許可（特23）第189号
／一級建築士事務所：香川県知事登録 第416号
号／宅地建物取引業免許：香川県知事登録（10）第1997号

富士建設株式会社

本社：〒769-1101
三豊市詫間町詫間 300 番地 1
TEL0875-83-2588(0120-832589)
FAX0875-83-5864
http://www.fujikensetsu.jp
mail y-manabe@fujikensetsu.jp（真鍋有紀子）